

研修旅行レポート 日本財務管理学会（西日本遠征編）

平成 24 年 10 月 31 日

平成 24 年 10 月 13 日に近畿大学にて行われた日本財務管理学会への参加のため、10 日から 20 日までの研修旅行に参加いたしました。

考察・感想

1. 日本財務管理学会第 35 回秋季全国大会

平成 24 年 10 月 13 日 近畿大学 東大阪キャンパス 21 号館
記念講演「リーマンショック以降の中小企業における財務管理」
統一論題「グローバル競争下での企業価値評価」

記念講演は税理士の先生による中小企業の現状と財務管理についてお話いただいた。一生懸命お話されていたのだが論点がまとまっておらず何を伝えたいのかよく理解できなかった。財務管理についてよりも、司会や質問されていた大学教授の方々の理路整然とした話し方と対比しながら、聴衆に自分の思考を的確に伝えるにはどうすればよいのかというメソッドについて考える時間になった。

統一議題は企業価値評価である。興味がある分野であり、DCF 法については過去に勉強していたこともあってスムーズに内容が理解できた。DCF 法だけではなく色々な企業価値の方法があることが興味深かった。3 人の大学教授によるアカデミックな講義は日本財務管理学会ならではのものであり、知識欲やモチベーションがとても上がりました。もう一度企業価値評価について復習し、自社の企業価値を最大限高められるよう参考にしようと思います。

懇談会では著名な大学教授の皆様と数多くお話させていただきました。特に文京学院大学の三浦后美先生と武蔵野大学の小松章先生と一緒にさせていただき「中国経済と外交問題」についてお話させていただきました。雑談のような会話ながらウイットに富んだユーモアの中に鋭い真実が見え隠れしていて、やはり凄いなあと感心しっぱなしでした。とても有意義な時間を過ごさせていただきました。

2. 伊勢路の旅（伊勢神宮から熊野へ）

10月11日 伊勢神宮・・・天照大御神を祀る内宮と、豊受大御神を祀った外宮から成る神宮のなかの神宮である。敷地内には巨木が生い茂り、川が流れるピリリと神聖な気が流れる雰囲気はまさにパワースポットである。内宮にて世の中の平和を祈願し、外宮にて会社の繁栄を祈願いたしました。「一隅を照らすこと則ち天照すこと」伊勢神宮に来るたびにこの言葉を思い出し気合が入ります。

10月12日 花窟神社・・・日本書紀にも記されている日本最古の神社といわれる花窟神社のご神体は高さ70mにも及ぶ大きな岩である。神社とはいえ社殿もなくただ岩があるだけである。神聖な空気と荘厳な岩肌明治時代に神社合祀が行われる前にあったとされる自然崇拝の一片を垣間見て驚きと納得を覚えた。

10月12日 熊野三山・・・本宮大社・速玉大社・那智大社からなる全国に3千社ある熊野神社の総本山である。熊野詣とは平安時代以降の浄土信仰の広がりのもと人々は生きながら浄土に生まれ変わることを目指し、日本全国から多くの人が行列をなし参拝に訪れる姿から「蟻の熊野詣」と言われたことに由来する。その内、速玉大社と那智大社を拝観した。緑豊かな山並みに艶やかな朱塗りの社殿に八咫鳥の像が映え、日本三名瀑の一つ那智滝が勇壮に流れ落ちる姿は熊野という地名の由来「神の在り野」にふさわしいと感じた。「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部としてユネスコの世界遺産登録されている。

3. 四国八十八箇所 お遍路の旅

古代より四国は都から遠く離れた辺地と呼ばれ修験者の修業の地とされていた。修験者たちが伊予・讃岐・阿波・土佐と海岸線を選んで修行していることから海の彼方にあると信じられていた神道上の世界「根の国」へ渡ることを願った修行の一環ではないかと考えられ、若き日の弘法大師もその修行を行ったと言われている。その後、多くの修験者が大師の足跡を辿って辺路（遍路）の旅を始めたことから八十八の礼所を巡礼する現在のお遍路の形が出来上がったとされている。

10月14日 大阪→神戸→フェリーにて高松に移動

10月15日 第79番礼所天皇寺・第80番礼所国分寺・第81番礼所白峯寺・第82番礼所根香寺・第83番礼所一宮寺

10月16日 第84番礼所屋島寺

10月17日 第31番礼所竹林寺・龍河洞・牧野植物園
10月18日 第39番礼所延光寺
10月19日 第45番礼所岩屋寺・第46番礼所浄瑠璃寺・第47番礼所八坂寺
10月20日 第48番礼所西林寺・第50番礼所繁多寺・第49番礼所浄土寺

以前から皆様のお力を借りてお遍路の旅をしておりましたが、今回も西日本遠征ということで無理を言ってお遍路させていただきました。大阪から神戸三宮に移動しフェリーに乗り小豆島経由で香川県高松市に入る。今回のメインは80番礼所から81番、82番礼所に向かう五色台の「お遍路ころがし」と呼ばれる難所です。「お遍路ころがし」とはお遍路さんを転げ落とすような急な山道を表します。風で木々の葉がこすれる音しか聞こえない鬱蒼とした細い上り坂をただひたすら礼所を目指して歩きます。追い打ちをかけるように背中の荷物がズッシリと感じ始めジワジワと体力を消耗していくのがわかります。一人で歩くお遍路は自分と対話する時間をくれます。自戒・反省・戦略・目標など普段の忙しい生活の中でじっくり考えられなかったことを嫌でも確認させられます。もしかするとこれがお遍路をする意味なのかなと思います。総距離25kmの山道を6時間かけてたどり着いた礼所で待っていたのは達成感よりも感謝の念でした。長い山道を登り切る身体をくれた両親に、お遍路の機会を与えて下さった宍倉先生に、お遍路できる時間をくれた家族や会社の皆様にひたすら感謝いたします。

今回の旅行では、学会に参加して知識を深めたことに加え、各県の地域経済や観光産業のあり方、交通整備状況を直に目にして確認するとともに、世界遺産やさまざまな神社・仏閣を拝観し、古き日本の文化や自然に触れることで新たな発見や知識を肌で感じることができ、自分自身の再確認とモチベーションアップ、会社の戦略策定等ができた実り多き研修となりました。